

昭和三十三年

幼稚園教育指導者講座の報告

玉越三朗

文部省主催の幼稚園教育指導者講座は、本年は東日本が東北大学教育学部（仙台市）、西日本が福井大学教育学部（福井市）でおこなわれました。東日本は七月一六日から一九日まで、西日本は十月二日から五日まで、各都道府県から推薦された指導者または将来指導者として活躍されるかたがたが、それぞれ二五〇名ずつ参会して、この講座の目的である「幼稚園教育において解決を要する当面の諸問題をとりあげて研究協議し、指導者としての基礎的教養および指導能力を高め、幼稚園教育の改善充実をはかる」ため熱心に研究をしました。

本年は「幼稚園教育要領」と「幼稚園設置基準」を中心とした具体的問題について、指導者としてとくに留意すべき事項をあげて研究協議しましたが、両会場とも、参加者が短期間の事前研究にもかかわらず、よく研究されてこれら、かつ研究会場が適切であったので非常に効果をあげました。次に研究問題のみをあげてみましょう。

第一班 幼児指導要録
研究主題「指導の記録」記入の手順
研究内容

- (一) 「社会」欄記入の手順と留意点について
幼児を観察する手順と留意点を考える。
たとえば、観察の観点とその重点、観察の場と機会、観察の方法など。
- (二) 二年保育年長児について評定尺度の一例を作る。
- (三) 指導記録簿（指導要録補助簿）の効果的な様式や記入の内容、方法を考える。
- (四) 指導記録簿およびその他の資料を用いて指導要録を記入するまでの手順と留意点を考える。
たとえば、指導記録簿およびその他の資料のとりかた、まとめかた、処理のしかた、評定のしかた、指導要録記入のしかたなど、
- 二、「指導上参考となる事項」欄記入の手順と留意点について
とりあげる必要のある事項を考え、基準となる事項をあげる。
- (二) とりあげた事項についての観察の方法を考える。
- (三) とりあげた事項についての指導、処理の記入上の留意点を考える。

第二班 健康

研究主題

- 一、手洗い、用便、食事の習慣形成の系統的指導法
- 二、低鉄棒、すべり台、ぶらんこなどの発展的系統的指導法

研究内容

- 一、手洗い、用便、食事の習慣形成の系統的指導法
(一) 手洗い
1. 手洗いの習慣形成のよい機会とその指導上の留意点について、
たとえば、砂遊びや粘土や絵の具を使った後、用便の後などの手洗い。
2. 手の洗いかたの留意点について
たとえば、手を洗う順序、水の使いかた、石けんの使いかた、消毒液の使いかた、洗った後の始末、手ぬぐいやハンケチの使いかたなど。
3. 二年保育児の二年間の指導の重点を系統づける。
たとえば、四才児、五才児の各学期ごとの指導の重点、すべての幼児に身につけさせておく必要のある程度およびその到達点など。
- (二) 用便
1. 便所の使いかたの留意点について
たとえば、大便器の使いかた、大便所の戸の開閉、大便器への構えかた、衣服の始末のしかた、紙の用量と持ちかた、水洗便器の流しかたなど。
2. きまった時間に用便するようになるま

での指導上の留意点について。

3. 用便の習慣を身につけさせるために効果的な個人指導、グループ指導の機会とその方法について。

4. 二年保育年少児の一年間の指導の重点の系統づけについて。

(三) 食事

1. 食事の習慣形成上とくに注意すべき点について、

たとえば、食前の手洗い、食事中の姿勢や態度、食器の扱い、偏食など。

2. 発達段階に応じた食事の指導の重点について。

3. おやつとの与えかたとその品質、量について。

(四) 手洗い、用便、食事の習慣形成上効果的な設備、用具の位置、数量、大きさについて。

(五) 手洗い、用便、食事の習慣形成をよりよくするために、家庭との協力をうる適切な方法について。

二、低鉄棒、すべり台、ぶらんこなどの発展的系統的指導法

(一) 低鉄棒

1. 発達に応じた経験を深めていくようにする場合の経験の順序とその指導上の留意点について、

たとえば、入園初期、五、六月頃……の経験。

2. 安全でしかも興味を失わないような廻転や懸垂の方法について、

たとえば、振りかた、巾のとりかた、低鉄棒に親しませる方法、援助のしかたなど。

3. 危険な遊びかたをした場合の原因とその指導法について。

(二) すべり台

1. 幼児の興味に即した使用のさせかたについて、

たとえば、のりかた、すべりかた、待ちかたおよびすべり競争、リレーなど。

2. すべり台の種類に応じた使用のさせかたについて、

たとえば、二人用、廻せんすべり台、波型すべり台など。

(三) ぶらんこ

1. 幼児の興味に即した使用のさせかたについて、

たとえば、のりかた（腰のかけかた、手のにぎりかたなど）動かしかた、待ちかたおよび危険でない遊びの方法など。

2. 危険なりのりかたをした場合の原因とその指導法について

(四) 低鉄棒、ぶらんこ、すべり台などで、主として養われる能力（身体的な面ばかりでなく他のあらゆる面におよぶ）

(五) 適切な用具の寸法、配置について

(六) 使用したがない幼児の原因とその指導法について

第三班 音楽リズム

研究主題

一、「音程やリズムに気をつけて歌う」系

統的指導法

二、「曲や歌に合わせて、自由にリズムミカルな動きをする」系統的指導法

研究内容

一、「音程やリズムに気をつけて歌う」系統的指導法

(一) どういう音程やリズムの歌が望ましいかについて具体的に例をあげ、その理由を明らかにする。

(二) 望ましい内容の歌を年令別、時期別に系統づける。

(三) 音程やリズムに気をつけて歌わせる場合の指導上の留意点について。

(四) 幼稚園における指導書「音楽リズム」篇（文部省発行）一二頁～一三頁「くつがなる」の場合の指導について。

(五) 幼稚園において俗に音ちといわれる幼児およびとくにリズム感の悪い幼児の指導法について。

二、「曲や歌に合わせて、自由にリズムミカルな動きをする」系統的指導法。

(一) 発達に即した適切な教材（歌曲、器楽曲）を系統づける。

(二) 自由でリズムミカルな動きを引き出すための指導上の留意点について。

(三) 歌曲を動きのリズムに使用する場合の取扱について。

(四) リズムミカルに動くような基礎的なリズムの指導について、

たとえば、スキップやギャロップなどはどういう形で、またどんな方法で、どの程

度おこなったらよいかなど。

第四班 視聴覚教材の利用

研究主題

一、幻燈、紙しばいの効果的な利用法

二、ラジオ、テープレコーダーなどの活用

研究内容

一、幻燈、紙しばいの効果的な利用法

(一) 幻燈、紙しばいの教育的な効果について。

(二) 幻燈、紙しばいを幼児に見せる場合の留意点について。

(三) 効果をあげた利用の実例について。

(四) 幻燈、紙しばい、の購入および自作上の留意点について。

(五) 幼児の作品を活用する場合の留意点について。

(六) 幻燈、紙しばいの利用を指導計画に組み入れる場合の留意点について。

(七) 効果をあげるために教師としてこころえておくべき取扱以上の基礎的技術について

二、ラジオ、テープレコーダーなどの活用

(一) ラジオの教育的な効果について。

(二) ラジオを幼児に聞かせる場合の留意点について。

(三) ラジオの利用を指導計画に組み入れる場合の留意点について。

(四) テープレコーダーの教育的な効果について。

(五) テープレコーダーの使用によって効果をあげた実例について。

(六) 幻燈、紙しばい、ラジオ、テープレコーダー以外の視聴覚教材の利用によって効果

をあげた実例について。

第五班 学級経営

研究主題

一、保育室の環境構成

二、学級編制のしかた

研究内容

一、保育室の環境構成

(一) 幼児が楽しく安全に生活できるような保育室の環境構成上の留意点について

たとえば、幼児の発育に応じた設備や用具の寸法、重量、その安定した配置、安全の確保など。

(二) 幼児の経験活動を最も有効にするために必要な施設、設備、園具、教具の最低の種類と数量、その寸法や保育室内での関係位置等について二年保育年長児四〇人の夏期と冬期の場合を研究してみる。

(三) 保育室でおこなわれるいろいろな経験活動の形態に即した机、腰掛、教具の配置とそれに要する広さの最低について(二年保育年長児四〇人)

たとえば、絵画の場合、製作の場合、リズムの場合、食事の場合などいくつかの形態に応じた広さについて。

(四) 幼児の所持品、共同で使う材料や用具の置き場所について。

(五) 保育室壁面の教育上の効果とその活用の具体例について。

(六) 「幼稚園における指導の実例一」(文部省発行)二一三頁(二年保育年少児四月十二日(日火)二五七頁(二年保育児一〇月一五日

(土)の日案にもとづく一日(登園から退園まで)の保育室の環境構成はどのようにしたら効果的か研究してみる。

二、学級編制

(一) 幼稚園の幼児全体をいくつかの生活集団に組織(学級編制)する場合の留意点について、新入園児とすでに在園する幼児に分けて、幼児、教師、施設、設備その他の面を考慮において考えてみる。

(二) 集团的、社会的な生活指導をすすめていく場合、幼児の発達に即してどんな大きさや質の小集団(グループ)を構成したらよいか系統づけてみる。

たとえば、ままごと、製作、音楽、自由なリズム活動などの場合、二年保育年少児の一学期では何人ぐらいでどんな幼児をグループとしたらよいかなど、またその場合の留意点。

(三) 集団によく参加できない幼児の指導上の留意点について

たとえば、集団に入れない幼児、慣れずぎていない幼児、入りにくい幼児、集団を乱す幼児などについての留意点。

(四) どういう場合に幼稚園全体として、学級全体として、グループとして、あるいは個別に指導するのが効果的かを具体例をあげて考える。

〈文部省初等教育課〉